



教会と科学が 森を再生させる

心
あ
つ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

森林再生の活動をしているエチオピアの教会のことがヤフーニュースにありましたので、ご紹介します。エチオピア正教会は、エチオピア最大の宗教団体で、5000万人近い信徒を抱える。その教会はほとんどの場合、豊かな森の中に建てられた。森は、1500年前からそこにあったと推測される。1900年代初頭には、エチオピアの国土の40%が森に覆われていたと考えられる。ところがこの100年の間に、人口の増加に伴って食料の需要が急増、多くの森が開拓されて農地に変えられた。木に覆われた土地がじわじわと減り続けた結果、現在、森林は国土のわずか4%前後を占めるにすぎない。子供の頃、この教会に通っていたワシエ氏は大で森を愛し、敬意を抱いてきた地元コミュニティが、森を守り、復活させられるよう支援したいと考え自分のエネルギーを、森を守ることに使おうと決意する。司祭に向けての

ワークシヨップを開き、森が時とともになんだけ縮小してきたかを説明した。森を守るための最も効果的かつ直接的な方法として、科学者と司祭たちは、簡易な低い壁を築いて森の境界を明確にし、家畜が迷い込んでくるのを防ごうと決めた。家畜の牛も森に入り込み、柔らかい若木を踏みつぶし、古い樹木を傷つけてしまう。この簡単な処置は驚くほどの効果を上げた。壁が作られた場所では、森が豊かに育っている。効果があまりに高いため、司祭たちの中には、壁を外に押し広げて、森をさらに拡大することを決めた者もいる。侵入者のいない森の中では、周囲の土地よりも水質がよくなり、木の苗木が生き残る確率が高まり、森にとっても周辺の農地にとっても重要な花粉媒介者がブンブン飛び回っている。森の大半が破壊されたと聞いたときには、事態は絶望的だと思っていました」とワシエ氏は言う。しかしこの土地には数千カ所もの教会の森が散らばっており、その一つひとつが、ワシエ氏にとっては将来の復活に向けた小さな希望だ。チシヨナルジオグラフィックより）教会と科学が協力したのが興味深いですね。

宗教と科学相対するようで、そうではないということですね。森を神聖に感じるのには、我々日本人と同じです。ワシエ氏は「そこが美しい場所であることは誰の目にも明らかですが、わたしにとって森はそれ以上の意味を持っていません。森は霊的な場所です。完璧な自然があり、人はそこで神に祈りを捧げるのです」と言っています。

編集後記

森林破壊を止めるのは、人の気持ちで、人の気持ちを動かすのは、神聖な場所、神聖な森に対して自分達にはそれが必要であるという強い衝動のようなものがあるように思えました。自然を守ることに、結局は人を守ることが、結局は人を守ることにもなっているようですね。